

令和3年度 環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果報告会 発表資料

活動団体の本事業への関わり

| | |
|---|---|
| 今年度より“環境整備”に取り組む | ✓ |
| 昨年度から引き続き“環境整備”に取り組む | |
| 昨年度までの“環境整備”を経て、今年度より事業化に取り組む | |
| 昨年度までの“環境整備”と“支援チーム派遣（事業化支援）”を受けて引き続き事業化に取り組む | |

活動団体名：（一社）隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会

活動地域：島根県隠岐郡 隠岐の島町、西ノ島町
海士町、知夫村

活動におけるテーマ・キャッチコピー
「誇りを持って隠岐を伝える」

活動団体紹介

【団体紹介】 正会員：51団体 賛助会員：3団体+17人（個人）

正会員：隠岐4町村の行政、教育機関、観光団体、経済団体、民間団体及び島根県

【組織の変遷】2009年に人団体として設立し、2020年4月1日に法人格を取得

【活動内容】ユネスコ世界ジオパークの理念に沿い、教育を基盤とした隠岐地域の活性化を図り、持続可能な地域社会の発展を目的とする。 <http://www.oki-geopark.jp/>



教育機関での環境学習



海岸清掃

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

住み続けられる島

- ・SDGsによる地域資源の保全・保護
- ・医療、教育の充実と防災意識の向上
- ・世帯収入の向上と雇用機会の創出
- ・地域産品のブランディングと地域内調達率の向上

誇りと思える島

- ・ジオパークを活用したふるさと教育の充実により誇りと愛情を持って隠岐を伝える
- ・U・Iターンの増加
- ・伝統文化の継承と保存

挑戦・成長できる島

- ・隠岐モデルの構築によるビジネスプランの創出
- ・隠岐の可能性を発信し意欲向上を図る
- ・関係者の連携による新規事業者などの受け入れと事業機会を創出

世界とつながる島

- ・インバウンド受け入れの充実
- ・ジオパークネットワークを活用した海外との交流事業の推進
- ・世界ジオパークネットワークの向上に向けた隠岐からの提言

「社会」「自然」「経済」の三方よし＝住んでよし、訪れてよし、働いてよし

自然

社会

経済

地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと

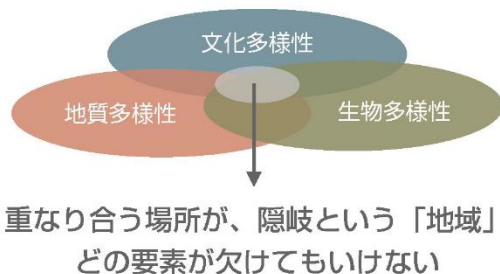
【取組み】持続可能な隠岐諸島の検討とそれを実現するための基本構想の策定

【環境、教育を取り入れた新たな隠岐の観光地域づくりの実現に向けて】
隠岐ツーリズムの構築

隠岐諸島は、46億年という長大な時間スケールにおける大地の歴史によって紡がれてきたからこそ、隠岐独自の多様な生命と私たちの暮らしがあります。

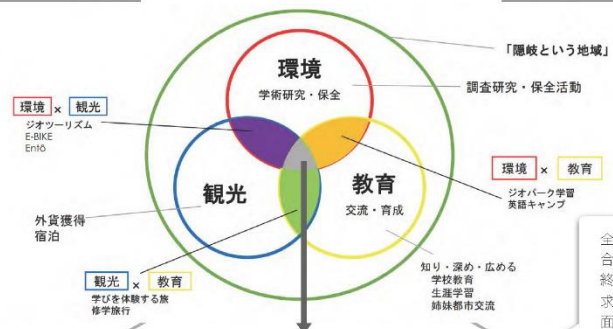
私たちは、100年後の“隠岐”も今と変わらぬ「地域」として存続する状態であることを目指します。

ビジョン



住み続けられる島

誇りと思える島



ストーリーのある中期滞在型観光

観光×環境×教育 隠岐アイランドツーリズム (ジオツーリズム)

全ての共通する部分を考えた場合、2分野ごとの組合せから抽出される事業を組み合わせ、初日から終日までしっかりとした“ストーリー”（例えば、探求のデザイン）のある行程のある一週間の旅とか面白いかもしれない例として作ってみました。

ミッション

挑戦・成長できる島

世界とつながる島

アジェンダ

「住み続けられる島」にするために
「挑戦・成長できる島」として…

行動指針1

「誇りと思える島」にするために
「挑戦・成長できる島」として…

行動指針2

「住み続けられる島」にするために
「世界とつながる島」として…

行動指針3

「誇りと思える島」にするために
「世界とつながる島」として…

行動指針4

これらの活動を通して 隠岐諸島の持続可能な社会の実現をめざします

地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと

1. 理念と目的

2. 教育

3. 誘客

4. 着地整備

5. 観光から周辺産業への波及

6. 保全

7. 学術研究

8. マネジメント

ステークホルダーとのWSにより基本構想の骨子版を策定し、隠岐の向かうべき方向性が構築できた。



A. ブランディング

B. ネットワーク



取り組みを通じた地域プラットフォームの変化

【コアメンバーの意識の変化】 ジオ協議会及び隠岐観光協会の職員

◇観光という手法を用いた観光地域づくりの必要性を理解

- ・観光を行うことにより、環境保全、教育の取り組みが弱まるのではないかという不安感
- ・一次産業、二次産業者を巻き込んだ取り組みに対する不安感

【ステークホルダーの意識の変化】 町村観光協会、商工会、ホテル事業者

◇ジオパークを基盤とした観光地域づくりの必要性を理解

- ・隠岐における観光地域づくりにおいて、何を基盤として取り組むべきかの意識共有ができていなかった
- ・（一社）隠岐ジオパーク推進機構という名称によって、隠岐の観光事業が削減されるのではないかという不安感

取組におけるボトルネックや新たに見えてきた課題

【取組みを通じた課題】

- ・「観光地域づくり」という考え方の共有
宿泊事業者、交通事業者、旅行事業者 → ⊕農林水産事業者、教育機関、金融機関
- ・隠岐としての観光の構築（特色ある観光地域づくりの必要性）
観光＋環境＋教育＝隠岐ツーリズム
- ・観光事業者による組織名（一社）隠岐ジオパーク推進機構への危機感
環境保全、教育振興を推進し、観光事業の推進が停滞するのではないかという不安感

【今後の課題】

- ・新組織による具体的な事業と成果の見える化
- ・計画的な地域経営戦略の策定
- ・自主財源の確保と財務戦略の策定
- ・地域住民への「観光地域づくり」の普及啓発

今後の展望

【地域プラットフォームの構築に向けた取組み】

ステークホルダーとのWSを通じて

- ・基本構想の具体化及び計画的な地域経営戦略の策定
(アクションプランの作成、KPIの設定)
- ・マンダラ図のブラッシュアップ (具体的な事業や成果目標を追記)

【事業化に向けた取組み】

- ・事業別の事業者を交えた検討会の開催
観光協会、宿泊事業者、交通事業者、ガイド事業者、
農林水産事業者など